

# Economic Indicators

発表日: 2023年4月28日(金)

## 鉱工業生産(2023年3月)

～1-3月期は2四半期連続の減産。4-6月期も停滞感が強い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
22年	1月	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲1.3	▲0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲6.2	▲5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲5.1	0.8	1.4	▲3.7
	3月	0.3	▲1.7	0.6	▲2.4	▲0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲1.5	▲6.6
	4月	▲1.5	▲4.9	▲0.3	▲4.6	▲2.3	4.1	▲2.8	8.4	1.9	▲2.5	0.7	▲5.8
	5月	▲7.5	▲3.1	▲4.1	▲3.1	▲0.9	3.8	3.1	7.9	▲4.2	▲1.9	▲4.6	▲3.4
	6月	9.2	▲2.8	5.0	▲2.9	1.9	4.2	▲1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲3.6
	7月	0.8	▲2.0	1.2	▲2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲1.7	9.6	▲2.5	9.4	2.9	6.1	5.1	5.4	▲3.5	13.4	▲4.2	19.8
	10月	▲3.2	3.0	▲1.7	4.1	▲0.5	5.0	▲4.5	2.8	▲4.2	9.1	0.1	7.1
	11月	0.2	▲0.9	▲0.1	▲0.5	0.3	3.8	3.3	6.9	▲3.6	4.9	2.5	1.8
	12月	0.3	▲2.4	▲0.9	▲3.1	▲0.4	3.3	1.5	10.1	1.9	3.6	2.7	▲0.3
23年	1月	▲5.3	▲3.1	▲3.7	▲3.0	▲1.0	3.1	2.8	10.0	▲7.9	▲3.2	▲6.4	1.3
	2月	4.6	▲0.5	3.9	0.9	1.3	2.2	▲1.8	5.2	2.7	3.7	4.3	4.9
	3月	0.8	▲0.7	0.4	▲0.2	0.6	3.2	2.1	7.9	▲0.7	0.9	1.3	6.7
	4月	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5月	▲2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)23年4月、5月は、製造工業生産予測調査の数値

### 〇1-3月期は2四半期連続の減産

経済産業省から公表された23年3月の鉱工業生産は、前月比+0.8%と2ヶ月連続の上昇となり、事前の市場予想(前月比+0.4%)を上回った。中国の感染拡大の一旦とゼロコロナ政策からの転換で、自動車部品等の供給制約が和らいだことやアジア向け輸出が増加したことが影響し、自動車工業(前月比+5.2%、前月比寄与度+0.78%pt)や生産用機械工業(前月比+5.8%、前月比寄与度+0.49%pt)等が押し上げた。一方、世界的なIT需要の一巡や米欧向け輸出の不振で、電子部品・デバイス工業(前月比▲10.7%、前月比寄与度▲0.65%pt)や汎用・業務用機械(前月比▲8.2%、前月比寄与度▲0.64%pt)等ではマイナス寄与が続いた。この結果、2月、3月の上昇によっても1月の大幅な落ち込みを取り戻すに至らず、1-3月期は前期比▲1.8%と2四半期連続の減産となった。

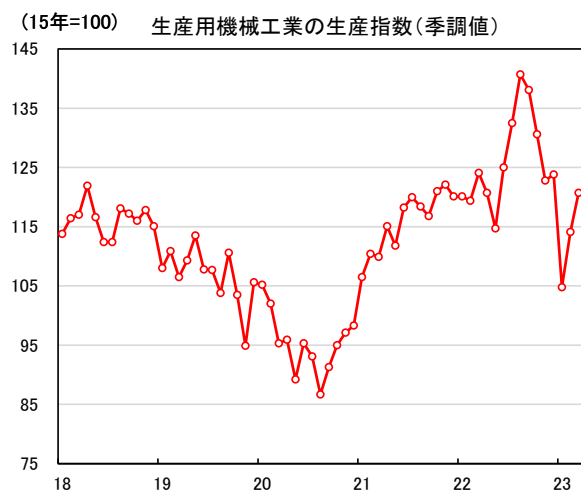
### 〇4-6月期も停滞感が強い状況が続く

今後についても、経済減速懸念が根強い世界情勢を踏まえると楽観視できず、4-6月期も停滞感が強い状況が続きそうだ。同時に公表された製造工業予測指数では4月が前月比+4.1%、5月が同▲2.0%が見込まれているが、予測指数には下振れバイアスがあることに注意が必要だ。こうした傾向を考慮した経産省による予測補正值では4月は前月比+1.8%となり、5月に反動減が見込まれることから一進一退の状況が続くことになる。

他方で、主力である自動車工業を含む輸送用機械は、1-3月期は多くの業種が減産となる中で前期比

+0.5%とプラスに転じており、足元で持ち直しがみられることは好材料だ。供給制約の緩和により、一時と比較すると生産計画の下振れも改善してきており、製造工業予測指数によると今後も増産が見込まれる（4月：前月比+4.3%、5月：同+7.6%）。

こうした供給制約の緩和や、足元での中国の経済再開に伴うアジア向け輸出の回復は4-6月期の生産の下支えとなるだろう。もっとも、米国、欧州における金融引き締めが悪影響が今後強まることを踏まえると、下押し圧力は依然として強い。当面は、供給制約の緩和と需要減少による綱引きにより鉱工業生産は停滞感の強い状況が続き、明確な持ち直しがみられるのは年度後半まで待つ必要があるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。